

まえがき ― このテキストの由来について ―

今年に親鸞聖人が安養の浄土にお還りになられてから七百五十七年になりますが、大分県宇佐市にある響流山勝福寺でも、遅ればせながら来年「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要」を勤めることになりました。

ついては、御遠忌テーマを「親鸞さま、なぜ お念仏なの？ ― 出会おう、語ろう、今こそでー」とし、毎月一回、合計二十回の「お待ち受け聞法会」を開くことにしました。そのうち、最初の十回は浄土真宗の入門講座となるようにということで、それを住職と坊守が担当しています。

このテキストは、住職が担当している「親鸞聖人のご生涯とその教え」の資料となることを念じて出版したものです。ただし、ここに収録した『愚禿釋親鸞―その生涯と教え―』と『恵信尼公―その生涯とお便り―』は、このたび初めて書き上げたものではありません。

今から十年前、日豊教区においては「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌」記念事業として、各組ごとにご門徒を対象とした「親鸞聖人入門講座」（二〇〇八年度・二〇一〇年度・合計九回）が開催され、私も講師の一人として親鸞聖人のご生涯について学ぶことになりました。その際、簡単なテキストを作り学習を進めていったのですが、終わってみればA5版で73頁ほどのものになっていました。このたびの聞法会ではそれに基づきながら学習しているのですが、それに、不足していた晩年の部分を中心に加筆訂正してできあがったものが『愚禿釋親鸞―その生涯と教え―』です。

それから『恵信尼公―その生涯とお便り―』ですが、日豊教区の坊守会は各組ごとに年六回学習会を開いており、二〇〇七年度は『恵信尼消息』を学習することになりました。私も講師の一人として『恵信尼消息』を学ぶ機会を与えられました。講師陣と教区坊守会の役員との事前学習において、恵信尼についての適当なテキストが必要であろうということになり、そのテキスト作りを私が担当することになりました。それがこの本の後半に収めた『恵信尼公―その生涯とお便り―』（原題『恵信尼の生涯』二〇〇七年発行・日豊教区坊守会）です。これについては、ほぼ原本通りです。

それぞれが十年近く前のものですが、読み返してみても、私自身が新鮮に読むことができましたので、皆さまからのお勧めもあり、このたび冊子にすることにしました。

このたび、親鸞聖人のご生涯を学び直していくうちに、親鸞聖人の発するお言葉の一つ一つには、末法の世を罪悪生死の凡夫として生きるほかなかった聖人の悲しみと、それを大悲してやまぬ阿弥陀如来のご本願への感謝が込められていることを感じさせていただきました。

このテキストが「親鸞さま、なぜ お念仏なの？」の問いを深めていく一助となってくれば、こんな有り難いことはありません。

二〇一八年一〇月一日